

# 「変えるのは 自分と未来」

日本一、人を喜ばす生き方、仕事をしてコスモに係る  
すべてに人を幸福にしたい

今回は「人を喜ばしたことが自分の喜びとなった」4名の社員のコメントです

社員 F さんより

## 【教え子からのプレゼント】

早いもので入社 25 年目を迎え、先日 5 月〇〇日に教え子の結婚式に招待されました。ある夜、自宅のチャイムが鳴り、コスモでお世話になった〇〇です。F 先生お元気ですか？分かりますか？と結婚式の招待状を自宅まで届けに来てくれました。

そして結婚式当日、式場で教え子の両親や妹さんより「まさか F 先生が来てくれるとは…ありがとうございます。」とても喜んでいただき、素晴らしい結婚式でした。

私たちは、子どもの成長に関わることが出来る喜びだけでなく、今回のように何十年後に素晴らしいプレゼントとして喜ばせて頂ける仕事をしています。

人を喜ばすことが、自分の喜びとなることが現実になりました。  
これからもたくさんの人に喜んでいただけるように仕事をしていきます。

社員 F 社員より

## 未来に *expect*

今年、4 月より営業を行っております。初めて訪問する園ばかりで、「何かお手伝いできることはありませんか？」と訪問しても「特にないです」「大丈夫、間に合ってます」とお断りされてしまいました。

これでは普通の営業と同じで、いくら訪問してもお断りされてしまう。お客様を喜ばす（人を喜ばす）を考えた時に「何か出来ることありますか？」ではなく「〇〇しましょうか？」の言葉に変えて再度訪問して、資料を渡すと「ありがとうございます」と感謝される事もありました。少しでもお役に立ちたいという気持ちが信頼という大きなものになるように、お客様のできること回りを続けます。

今回の営業にて自分の周りの人に喜んでいただけると明るい雰囲気になると感じました。

社員 A さんより

## 手紙で人を喜ばす

昨年度は、自分ができることを考え子どもたちに手紙をたくさん書きました。もらった手紙には必ず返事を書きました。クラブ員も多くはありませんが、100名以上の子に一人ひとり簡単ではありますが手紙を書いたりもしました。なぜこんなことをするようになったかという、子どもからもらえる手紙がすごくうれしかったからです。「この子は、家でもコスモのことを考えてくれているのか」「この子の貴重な時間を使って、私のために筆を執ってくれたのか」と思うと、こみ上げてくるものがあります。

いつも子どもから手紙をもらったり、保護者からありがたい言葉をもらったりと喜ばせてもらうことばかりなので、私から子どもたちへ保護者の方へ園へ喜ばせることができるよう、これからも日々の過ごし方を意識して変えていきます。

## 「人に寄り添い」=人を喜ばす

社員 T さんより

今年度の契約園周りで園長先生とお話した内容

久しぶりに〇〇園に行き、園長先生と話すことができました。昔話に花が咲く中で、園長先生が22才で園に入った時のことを話して下さいました。

園長の息子とはいえ、職員全員が警戒心を持っていることがあからさまで、〇〇先生（息子さん）が職員室に入ると、それまで大きな声でしゃべっていた全職員がしーんと静まり返るような毎日で、よそ者扱いに心が折れそうになることが何度もあったそうです。

そんな時に、唯一の救いだったのが当時のコスモの担当指導員で、年が近く同性であることからいつも話がはずみ、「指導終了後に世間話をするだけでどれほど癒されたかわかりません。そのお蔭で何とか乗り越えることができました」とおっしゃっていました。

人を喜ばせるためには、お役に立てる知識や情報以外にも、時には話し相手になること、それだけで人を救うこともるのだと痛感させられました、いわば「人に寄り添う」とでもいうのでしょうか。専門的な知識や情報も、この優しい気持ちがなければ、決して生きることはないような気がしています。